

都市計画マスタープラン  
住民アンケート調査

† † † 目 次 † † †

<参考>都市計画マスタープランって何？.....	3
住民アンケート調査.....	4
1.調査の概要.....	4
1.1 調査の目的.....	4
1.2 調査方法.....	4
1.3 回収状況.....	4
2.調査結果.....	5
2.1 回答者の特性.....	5
2.2 粕屋町の将来のあり方.....	10
2.3 施策に対する満足度・重要度.....	13
2.4 商業地、工業・流通施設.....	15
2.5 交通の利便性.....	20
2.6 自然や景観.....	22
2.7 土地利用のあり方.....	27
2.8 まちづくりへの参加.....	30

〈参考〉都市計画マスタープランって何？

〈参考〉都市計画マスタープランって何？

【都市計画マスタープランとは】

粕屋町が目指すべき都市の将来像を明らかにし、その実現にむけた、まちづくりの方針をわかりやすく示す計画です。

粕屋町は、このマスタープランの方針に即して都市計画を定め、都市整備や土地利用の規制や誘導を行っています。

次のようなことについて考えていきます



粕屋町の都市計画マスタープランは粕屋町のホームページに掲載しています。内容は以下よりご覧ください。

粕屋町ホームページ (<http://www.town.kasuya.fukuoka.jp>)

- > 事業者ガイド
- > 都市計画・まちづくり
- > 都市計画マスタープラン

## 住民アンケート調査

### 1. 調査の概要

#### 1.1 調査の目的

本住民意識調査は、粕屋町都市計画マスタープランを策定するにあたり、住民の意識や意向を把握して計画策定の基礎資料とする事を目的として実施した。

#### 1.2 調査方法

##### (1) 調査対象

- ・調査人数=3,000人
- ・調査対象=18歳以上で町内在住の方
- ・抽出方法=住民基本台帳より、該当者を無作為抽出した。

##### (2) 配布・回収方法

郵送法により配布・回収を行った。

##### (3) 調査期間

平成30年9月27日～平成30年11月2日

#### 1.3 回収状況

3,000通配布し、1,005通回収した。回収率は33.5%となった。

小学校区別、性別での回収数と実際の人口比率は近い値となっており、地域や性別による回答の偏りは少ない。

表 0-1 回収数と人口比率（小学校区別人口・性別人口）

小学校区	回収数		地区別人口	
	回収数	比率	人数	比率
大川	207	21.1%	10,642	22.4%
仲原	249	25.4%	11,631	24.4%
粕屋西	236	24.0%	12,482	26.2%
粕屋中央	290	29.5%	12,849	27.0%
地区不明	23	—	—	—
合計	1,005		47,604	

性別	回収数		性別人口	
	回収数	比率	人数	比率
男性	494	49.7%	23,551	49.5%
女性	499	50.3%	24,053	50.5%
性別不明	12	—	—	—
	1,005		47,604	

※小学校区別人口、性別人口は平成30年10月末現在の住民基本台帳より集計

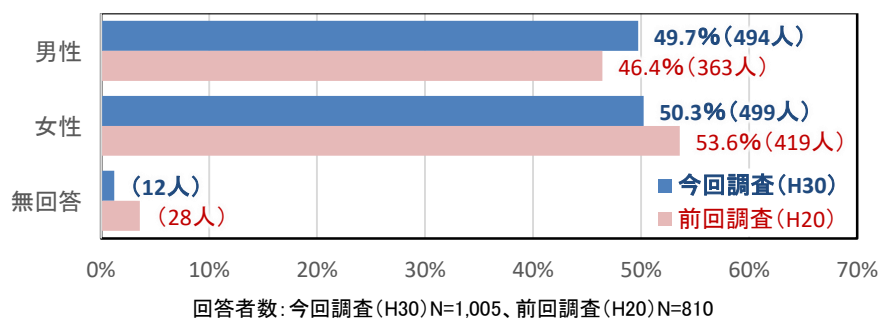
## 2. 調査結果

### 2.1 回答者の特性

設問：問1 あなた自身のことについておたずねします。  
(該当する項目を1つだけ選択する単一回答)

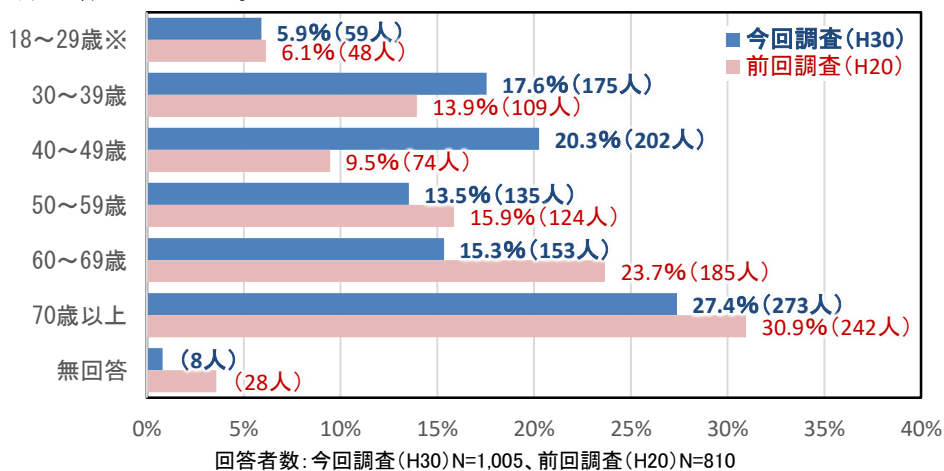
#### (4) 性別

- ・回答者は男女半数ずつ。
- ・住民基本台帳の男女比率（男性 49.5%、女性 50.5%）とほぼ合致している。



#### (5) 年齢

- ・「70歳以上」(27.4%)の回答が最も多く、次いで「40～49歳」(20.3%)、「30～39歳」(17.6%)が多い。
- ・前回調査より50代、60代、70歳以上の高齢な回答者の割合が減少し、30代40代の若い回答者の割合が増加している。

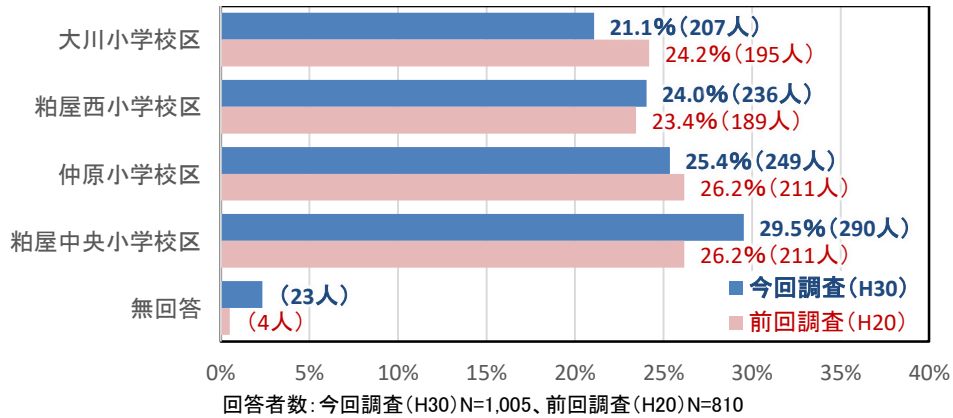


※前回調査では調査対象が20歳以上であったため、年齢区分は「20～29歳」としていた。  
今回調査では調査対象を18歳以上とし、「18～19歳」「20～29歳」としていたが、「18～19歳」が4人と非常に少ないため、「20～29歳」55人とあわせて集計した。

－ 住民アンケート調査 －

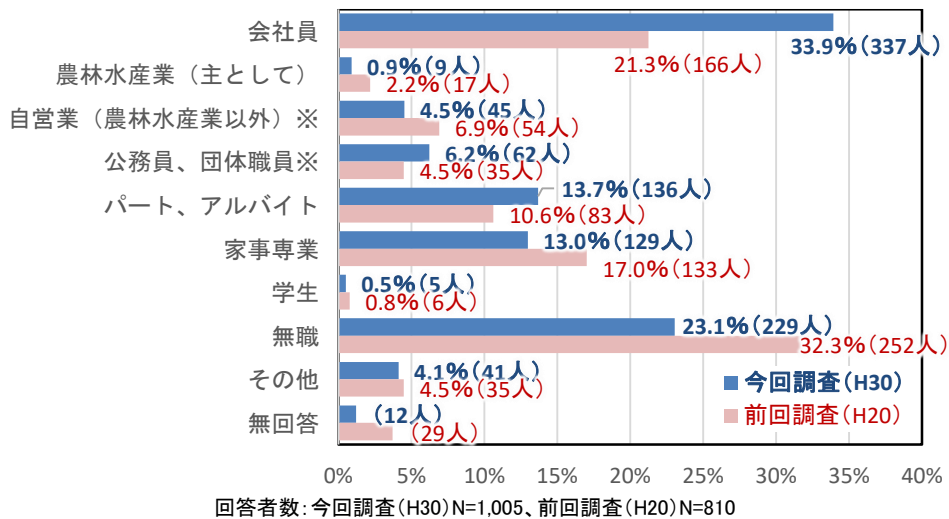
(6) 住んでいる小学校区

- ・「粕屋中央小学校区」(29.5%) が最も多く、次いで「仲原小学校区」(25.4%)、「粕屋西小学校区」(24.0%)、「大川小学校区」(21.1%) の順となった。
- ・住民基本台帳の校区人口比率(大川 22.4%、仲原 24.4%、粕屋西 26.2%、粕屋中央 27.0%) と同様の傾向であった。



(7) 職業

- ・「会社員」(33.9%)、「無職」(23.1%)、「パートアルバイト」(13.7%)、「家事専業」(13.0%) の順に多い。
- ・前回調査より会社員の割合が増加し、無職の回答者の割合が減少している。

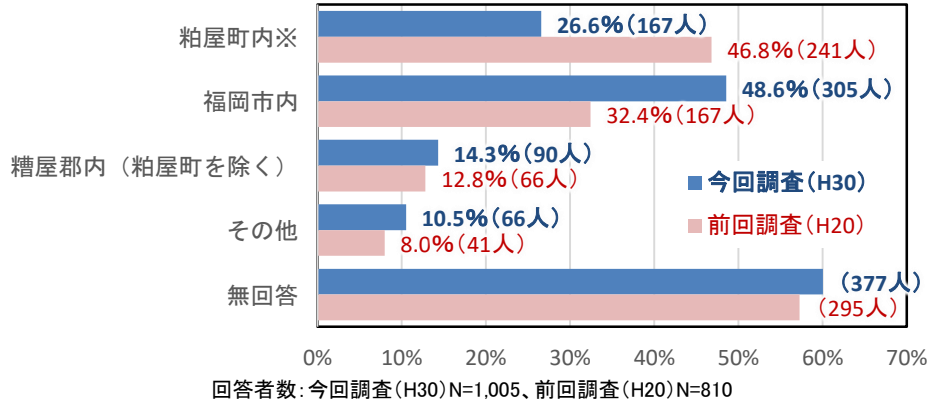


※前回調査では「自営業 (農林水産業以外)」を「自営業 (商工サービス業)」に、「公務員、団体職員」を「公務員、団体職員、教員」と表記としている。

— 住民アンケート調査 —

(8) 通勤・通学先

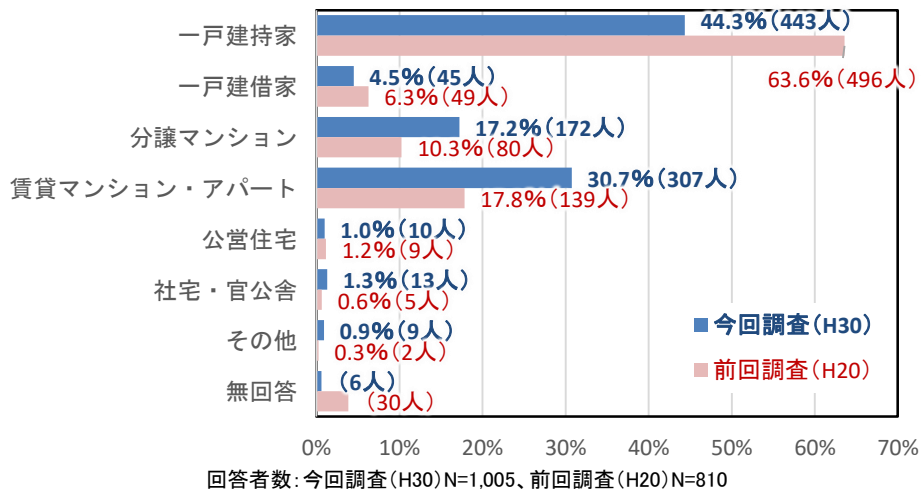
- ・通勤・通学先は「福岡市内」(48.6%)、「粕屋町内」(26.6%)が多い(無回答を除く)。
- ・前回調査より「粕屋町内」が減少し「福岡市内」が増加している。



※前回調査の「自宅」「粕屋町内」を、今回調査では「粕屋町内」に統合している。

(9) 居住形態

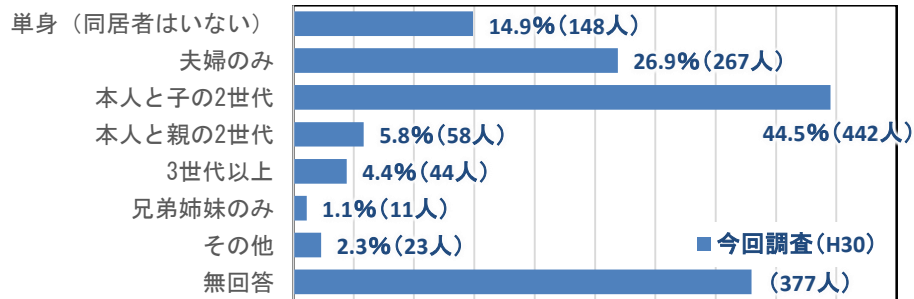
- ・「一戸建持家」(44.3%)が最も多く、次いで「賃貸マンション・アパート」(30.7%)、「分譲マンション」(17.2%)となっている。
- ・前回調査と比較して、戸建住宅の割合が減少し、マンションやアパートの割合が増加している。



— 住民アンケート調査 —

(10) 家族構成

- ・「本人と子の2世代」(44.5%)が最も多く、次いで「夫婦のみ」(26.9%)、「単身」(14.9%)の順となっている。

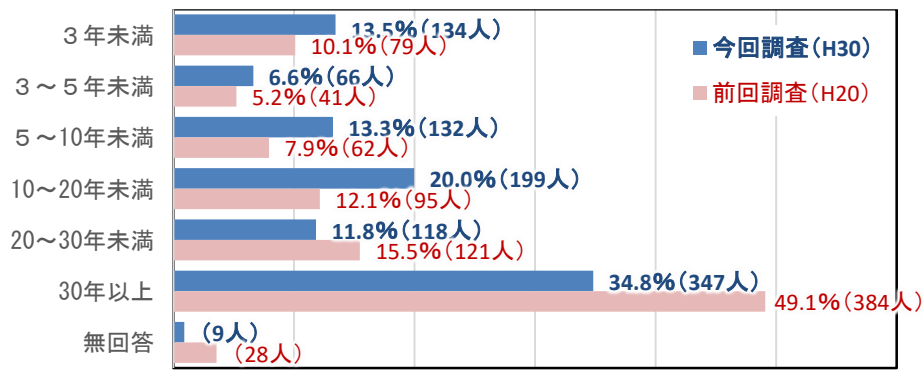


回答者数: 今回調査(H30)N=1,005

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40% 45% 50%

(11) 居住年数

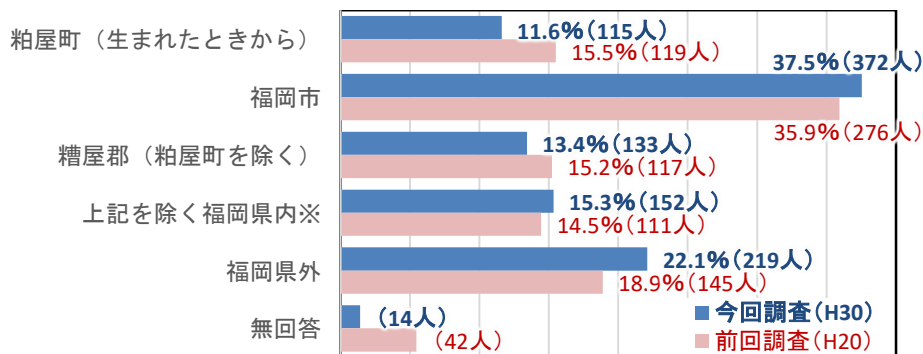
- ・「30年以上」(34.8%)が最も多く、次いで「10~20年未満」(20.0%)が多い。
- ・前回調査と比較して居住年数が短い回答者が増加しており、居住年数20年以上の割合が減少し、居住年数20年未満の割合が増加している。



回答者数: 今回調査(H30)N=1,005、前回調査(H20)N=810

(12) 粕屋町に移り住む前の住所

- ・「福岡市」(37.5%)が最も多く、「福岡県外」(22.1%)となっている。
- ・「粕屋町(生まれたときから)」(11.6%)は1割程度であった。



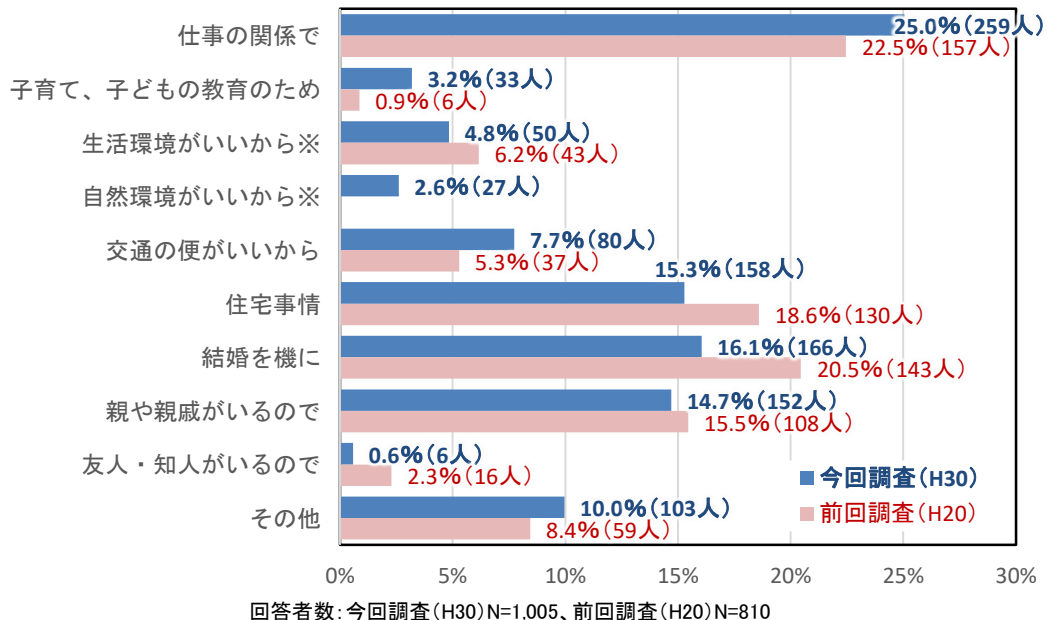
回答者数: 今回調査(H30)N=1,005、前回調査(H20)N=810



－ 住民アンケート調査 －

(13) 粕屋町に住むようになったきっかけ

・「仕事の関係」(25.0%)、「結婚を機に」(16.1%)、「住宅事情」(15.3%)、「親や親戚がいるので」(14.7%)の順となっている。



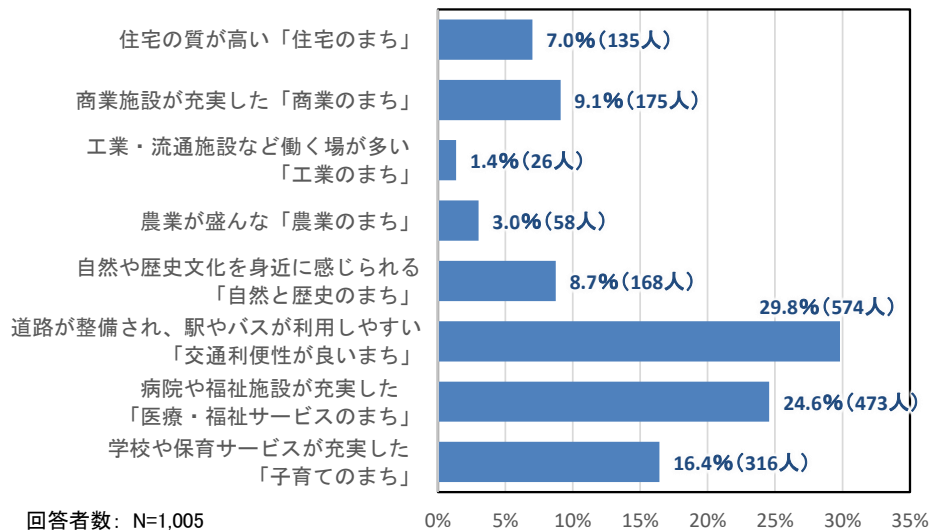
※前回調査の「環境が良いから」を、今回調査では「生活環境が良いから」「自然環境が良いから」に分けている。  
 前回調査の「環境が良いから」は「生活環境が良いから」の項目に示している。

## 2.2 粕屋町の将来のあり方

### (14) 町の将来像・方向性

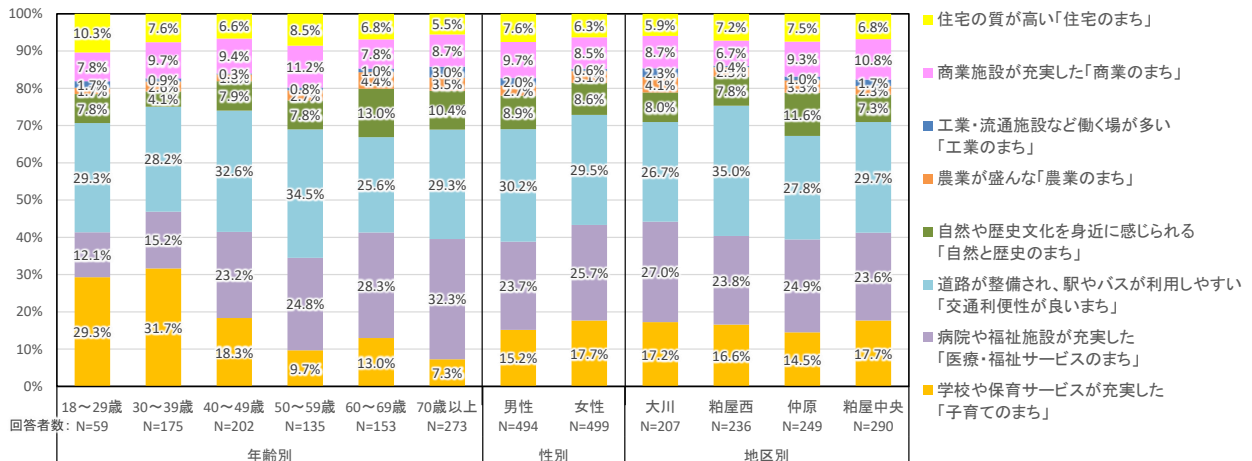
設問：問2 今後、粕屋町がどのような町になることを望みますか。  
(選択肢から2つまで選択する複数回答)

- ・「交通利便性が良いまち」(29.8%)を望む意見が最も多く、次いで「医療・福祉サービスのまち」(24.6%)、「子育てのまち」(16.4%)が多かった。



### ■年齢別・性別・地区別集計

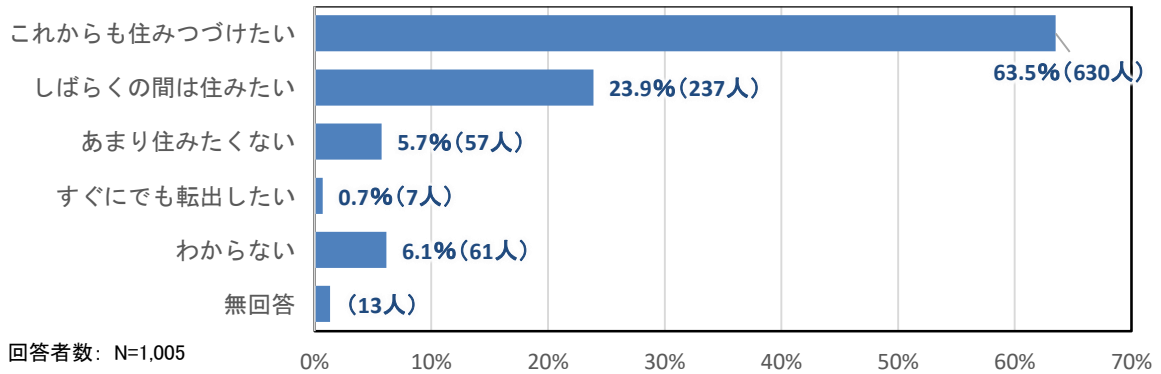
- ・多くの年齢層、性別、地区で「交通利便性が良いまち」を希望する割合が高い。
- ・若い年齢層で「子育てのまち」の割合が高く、30代では「子育てのまち」が最も高い。
- ・60代と70歳以上では「医療・福祉サービスのまち」の割合が最も高い。
- ・女性の方が「子育てのまち」の割合が高い。
- ・粕屋西地区で「交通利便性が良いまち」の割合が特に高い。



(15) 今後の居住意向

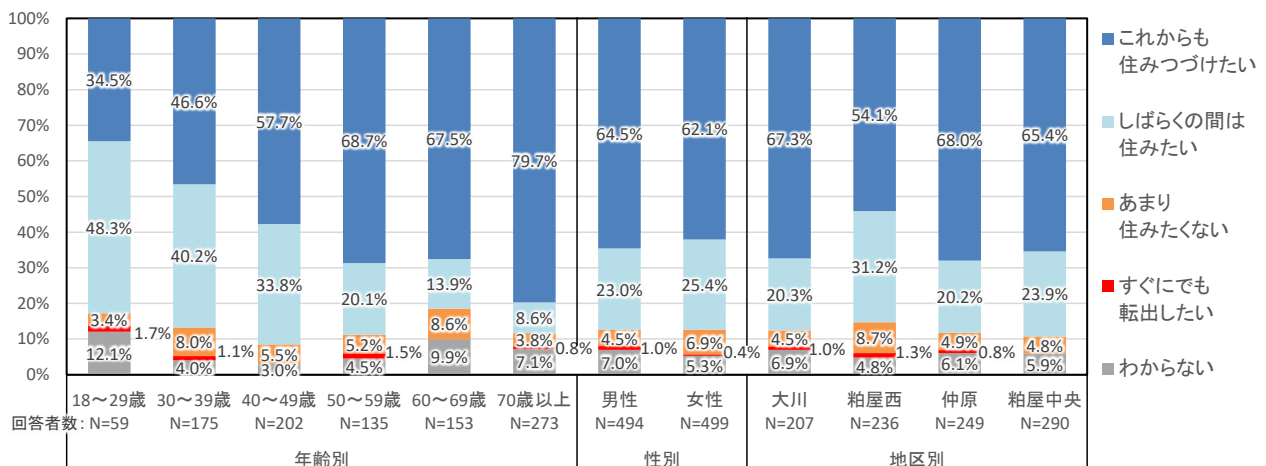
設問：問3 今後も粕屋町に住み続けたいと思いますか。  
(選択肢から1つだけ選択する単一回答)

- ・「これからも住み続けたい」(63.5%)と「しばらくの間は住みたい」(23.9%)を合わせると87.4%を占め、多くの住民が住みたいと答えている。
- ・反対に「あまり住みたくない」(5.7%)と「すぐにでも転出したい」(0.7%)を合わせても6.5%にとどまった。



■年齢別・性別・地区別集計

- ・若い世代ほど「しばらくの間は住みたい」の方が「これからも住み続けたい」よりも多く、転出の可能性も高い。
- ・粕屋西地区は「これからも住み続けたい」の割合が最も低く、「あまり住みたくない」「すぐにでも転出したい」の割合は最も高い。

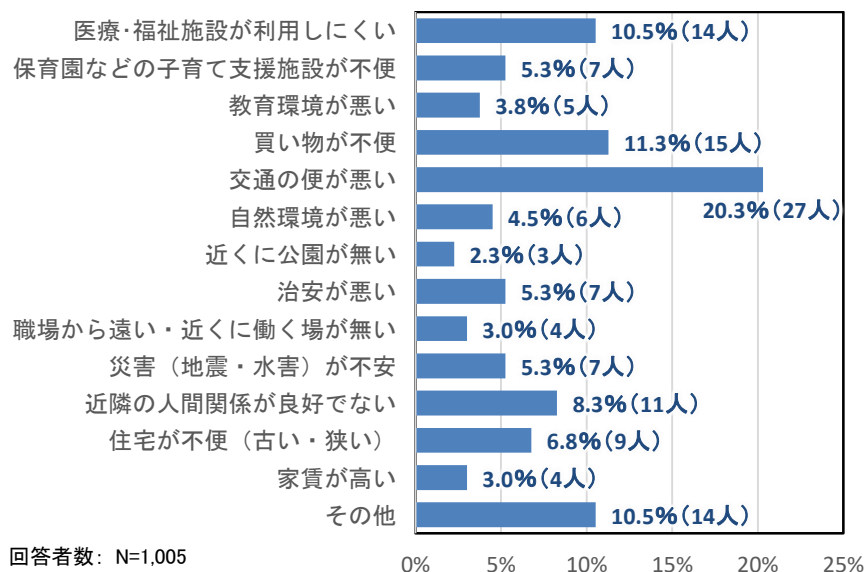


－ 住民アンケート調査 －

(16) 粕屋町に住みたくない理由

設問：問4 粕屋町に住みたくない理由は何ですか。  
 (選択肢から2つまで選択する複数回答 前設問で「あまり住みたくない」「すぐにも転出したい」という回答者が対象)

・住みたくない理由としては「交通の便が悪い」(20.3%)が最も多く、「買い物が不便」(11.3%)、「医療・福祉施設が利用しにくい」(10.5%)の順であった。



### 2.3 施策に対する満足度・重要度

設問：問5 これまで取り組んできたまちづくりについてどれくらい満足していますか。  
 今後のまちづくりにおいてどの程度重要ですか。  
 (重要度と満足度について5段階のうち1つだけ選択する単一回答)

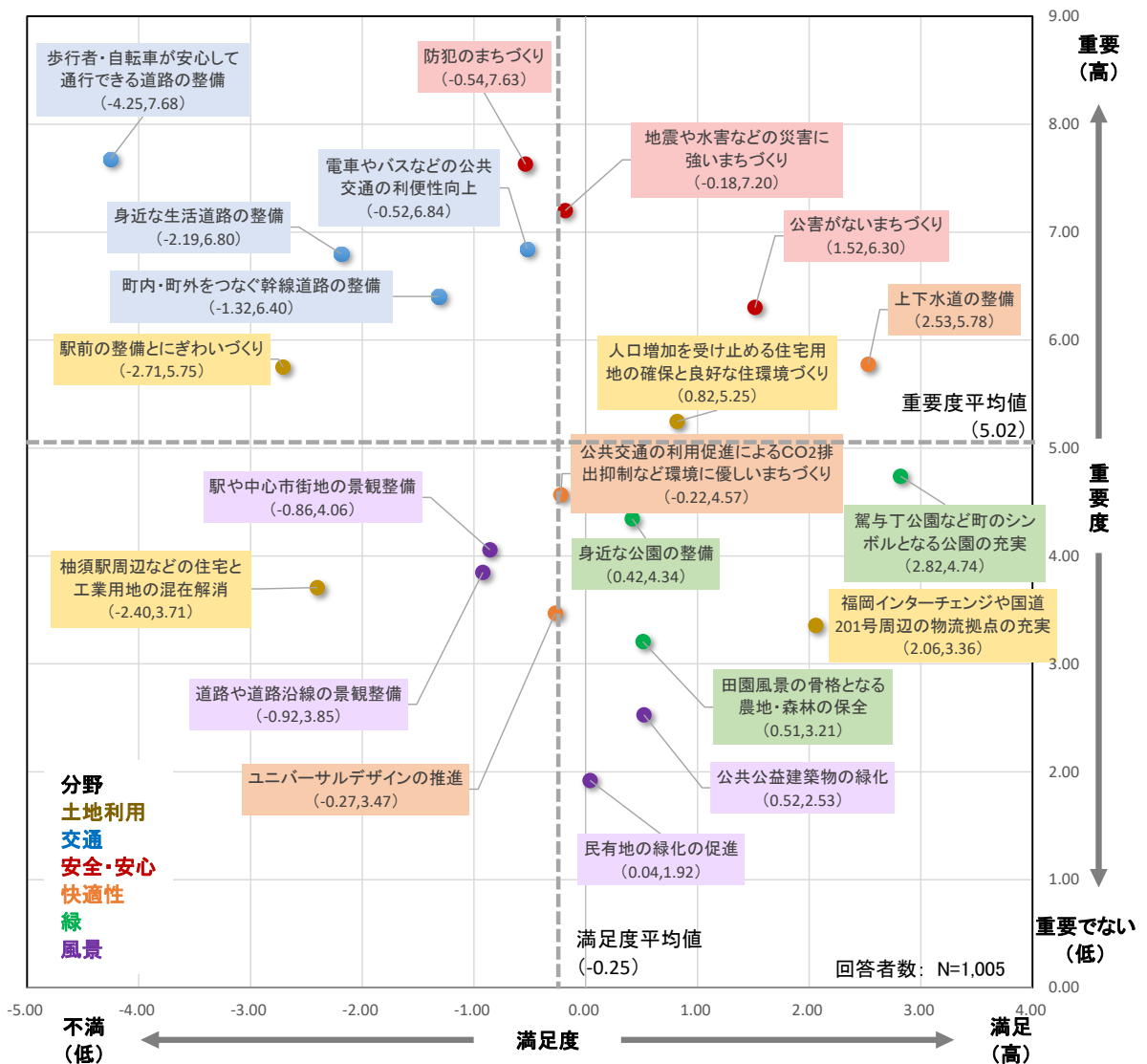
これまで取り組んできた都市計画マスタープランの主要施策について、満足度と重要度の評価点を算出し、満足度・重要度の両方から評価した。

#### ●満足度・重要度を示す評価点の算出方法

満足度 評価点	=	「満足」の回答者数×10点 「やや満足」の回答者数×5点 「どちらともいえない」の回答者数×0点 「やや不満」の回答者数×-5点 「不満」の回答者数×-10点 の合計	÷	「満足」 「やや満足」 「どちらともいえない」 「やや不満」 「不満」 の回答者数の合計 (無回答を除く回答者数)
重要度 評価点	=	「重要」の回答者数×10点 「やや重要」の回答者数×5点 「どちらともいえない」の回答者数×0点 「あまり重要でない」の回答者数×-5点 「重要でない」の回答者数×-10点 の合計	÷	「重要」 「やや重要」 「どちらともいえない」 「あまり重要でない」 「重要でない」 の回答者数の合計 (無回答を除く回答者数)

(17) 重要度が高い施策・満足度が低い施策

- ・「歩行者・自転車が安心して歩行できる道路の整備」は、全項目の中で満足度が最も低く、重要度が最も高い。全項目の中で一番に取り組むべき施策といえる。
- ・交通分野の施策全てが重要かつ満足度が低く評価されており、交通問題について、重点的に取り組む必要がある。
- ・安全・安心分野の施策は重要度が高いと認識されている。特に「防犯のまちづくり」や「地震や水害などの災害に強いまちづくり」は重要度が高い。
- ・緑に関する施策は満足度が高く、町民から一定の評価を受けているといえる。
- ・土地利用に関する施策で「駅前整備とにぎわいづくり」「柚須駅周辺などの住宅と工業用地の混在解消」については満足度が低い。

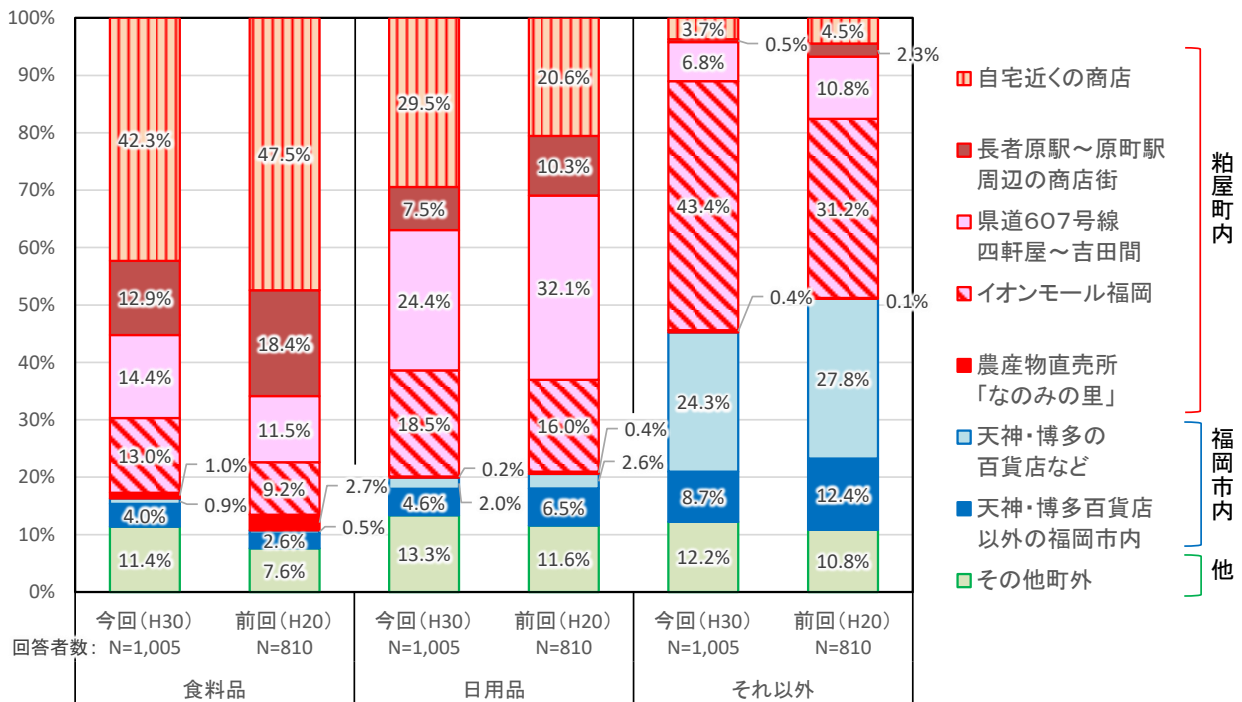


2.4 商業地、工業・流通施設

(18) 利用している商業施設

設問：問6 普段あなたはどこで買い物をしますか。  
(それぞれ1つだけ選択する単一回答)

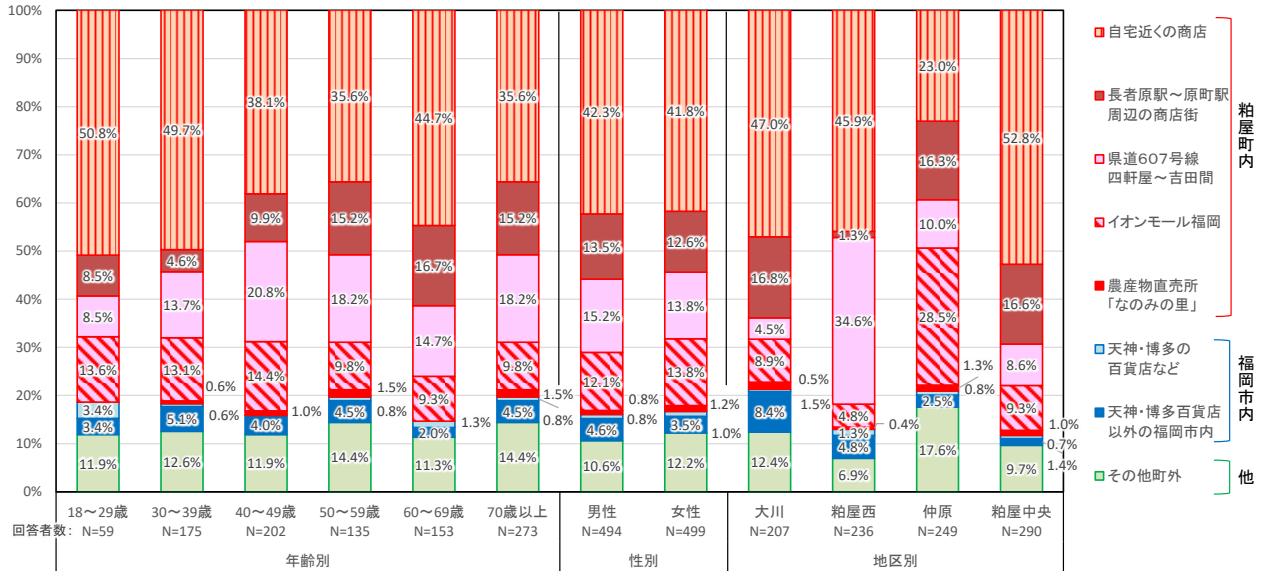
- ・それぞれの買い物で住み分けがされており、「食料品」は「自宅近くの商店」(42.3%)、「日用品」は「自宅近くの商店」(29.5%)と「県道607号線四軒屋～吉田間の商業施設集積地」(24.4%)、「それ以外」は「イオンモール福岡」(43.4%)が多い。
- ・前回調査より、全ての買い物で「イオンモール福岡」利用者の割合が増えている。
- ・反対に、すべての買い物で「長者原駅～原町駅周辺の商店街」利用者の割合が減っている。
- ・「日用品」では「自宅近くの商店」利用者の割合が増加し、「県道607号線四軒屋～吉田間の商業施設集積地」利用者が減少している。



— 住民アンケート調査 —

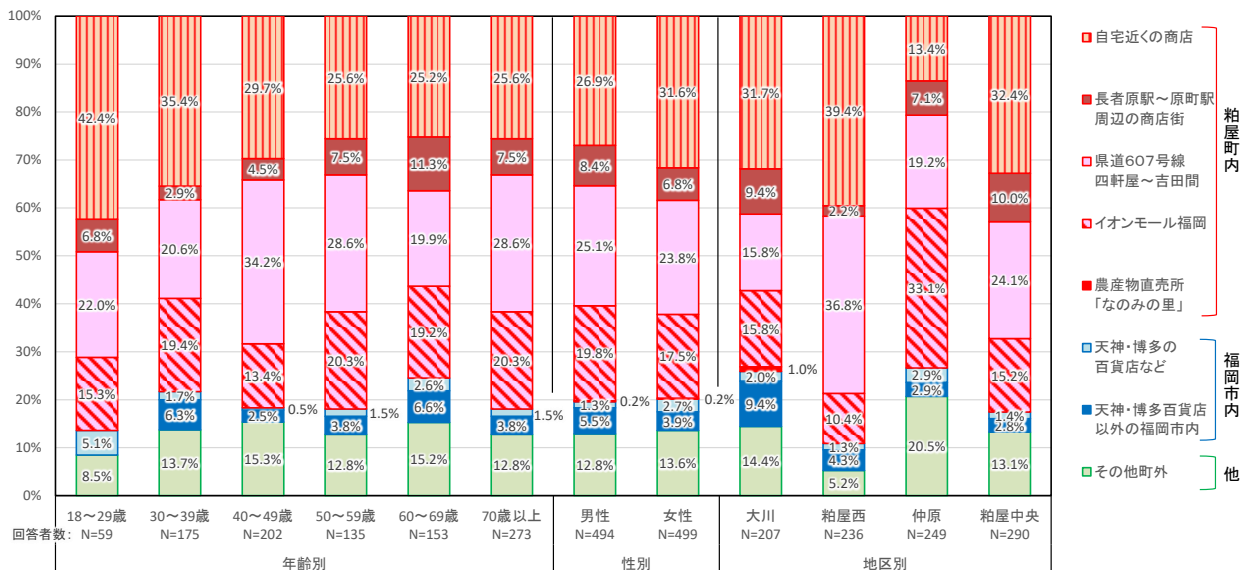
1) 食料品

- ・18~39歳の若い世代で「自宅近くの商店」をよく利用している。
- ・粕屋西地区では「県道607号線四軒屋～吉田間の商業施設集積地」、仲原地区では「イオンモール福岡」の利用が他の地区より多い。



2) 日用品

- ・若い世代で「自宅近くの商店」を利用している割合が高い。
- ・粕屋西地区では「県道607号線四軒屋～吉田間の商業施設集積地」、仲原地区では「イオンモール福岡」の利用が最も多い。

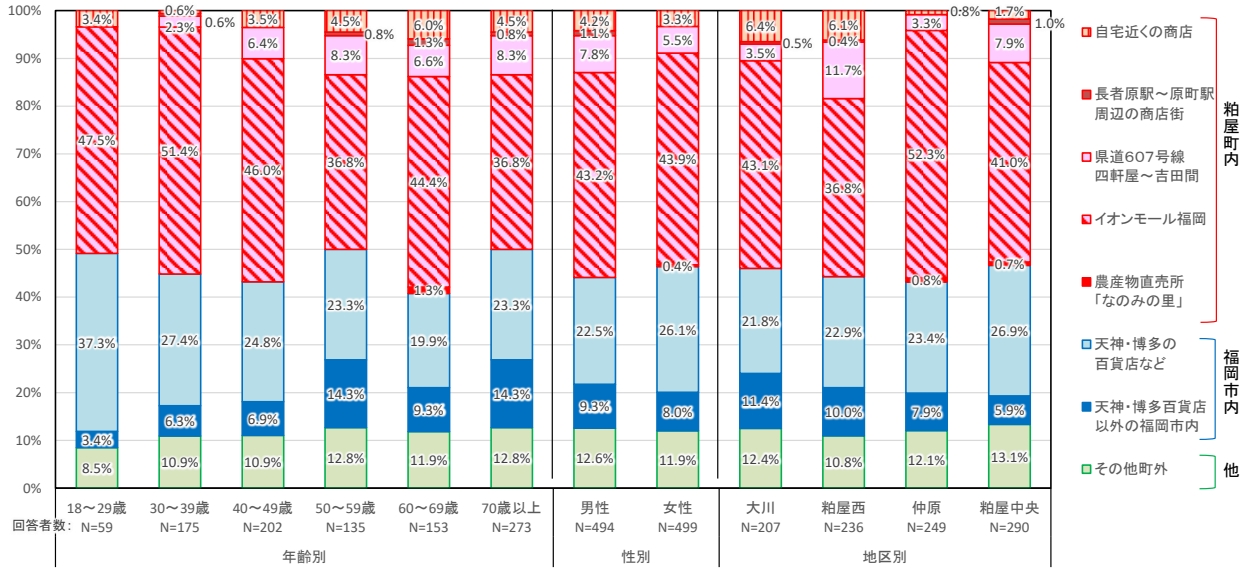




— 住民アンケート調査 —

3) その他

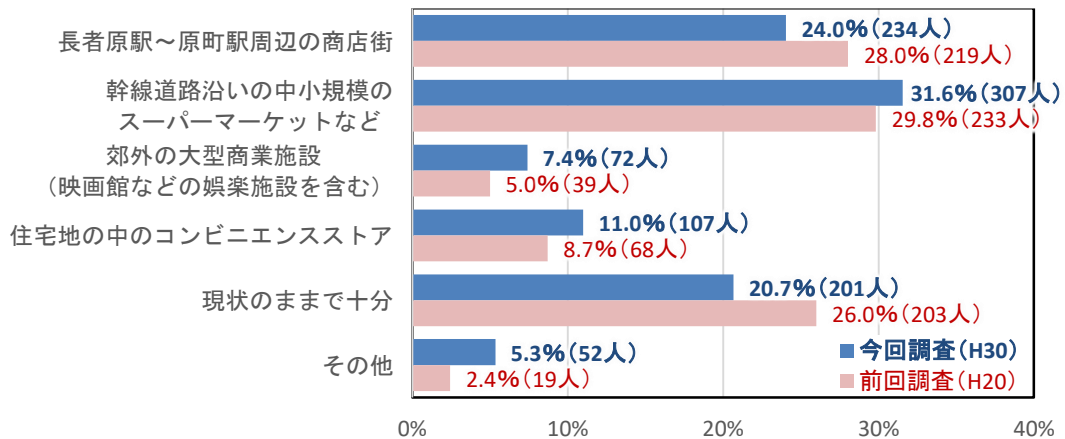
- ・若い世代で「天神・博多の百貨店」の利用が多い。
- ・仲原地区では「イオンモール福岡」の利用が多い。



(19) 充実させたい商業施設

設問：問7 粕屋町で今後どのような施設が特に充実すれば、より暮らしが豊かになると思いますか。（選択肢から1つだけ選択する単一回答）

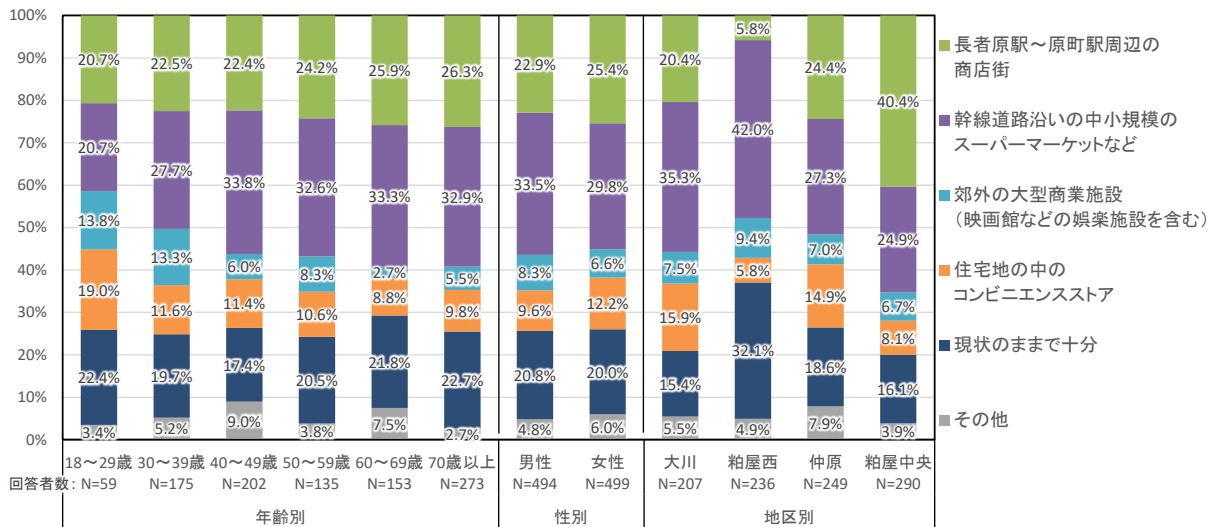
- ・「幹線道路沿いの中小規模のスーパーマーケットなど」(31.6%)、「長者原駅～原町駅周辺の商店街」(24.0%)の割合が高いが、「現状のままで十分」も20.7%を占める。
- ・大規模商業施設をこれ以上望む住民は少ない。
- ・前回調査より「現状のままで十分」という意見が減少している。



回答者数：今回調査(H30)N=1,005、前回調査(H20)N=810

■年齢別・性別・地区別集計

- ・高齢世代で「幹線道路沿いの中小規模のスーパーマーケットなど」の割合が高い。
- ・若い世代は「大型商業施設」や「コンビニエンスストア」の割合が他の世代より高い。
- ・粕屋西地区では「現状のままで充分」が多く、「長者原駅～原町駅周辺の商店街」が少ない。
- ・長者原駅や原町駅がある粕屋中央地区で「長者原駅～原町駅周辺の商店街」が多い。

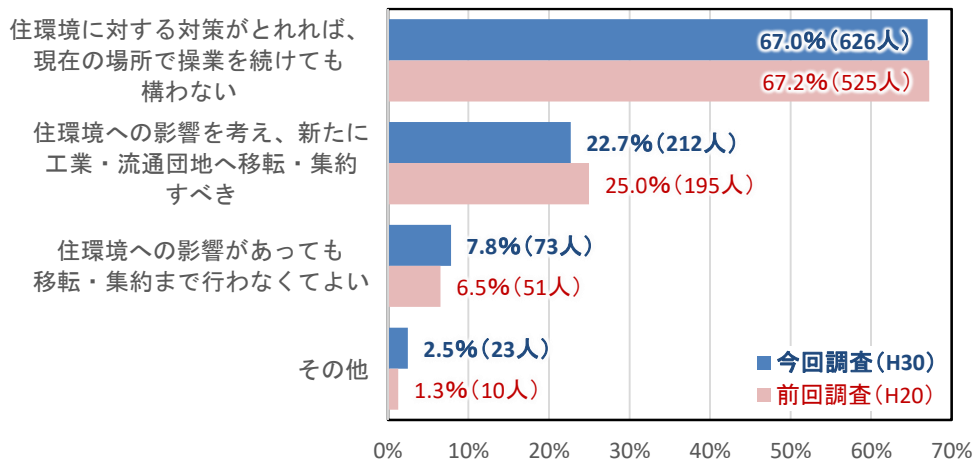


－ 住民アンケート調査 －

(20) 工業・流通業地のあり方

設問：問8 町内の「工業・流通業地」の今後のあり方について、あなたの考えに最も近いものどれですか。(選択肢から1つだけ選択する単一回答)

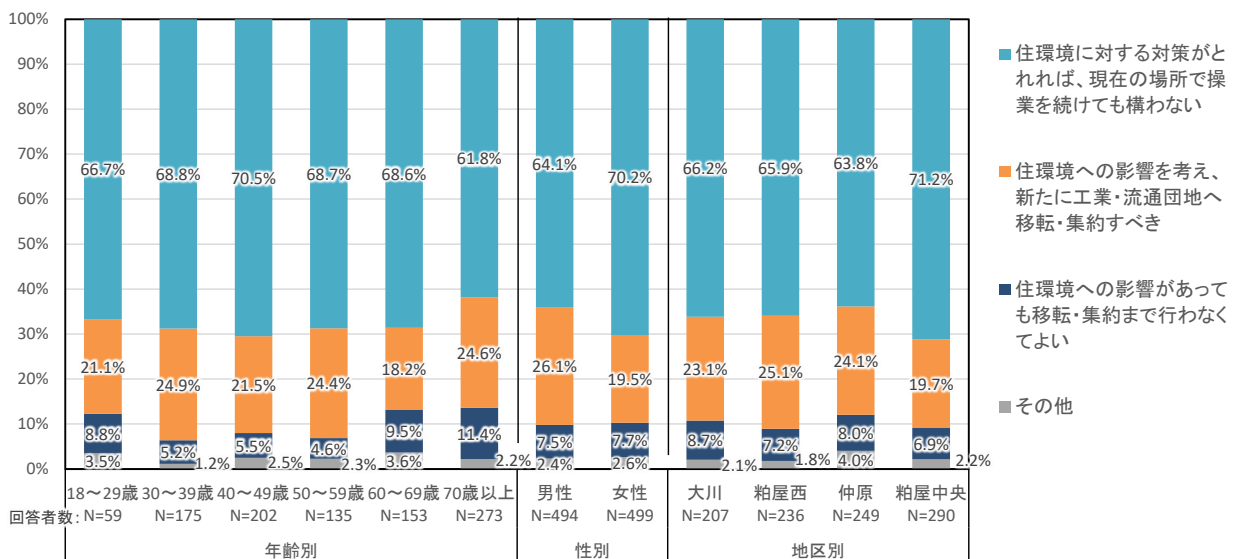
- ・「住環境に対する対策がとれば、現在の場所で操業を続けても構わない」が67.0%と、過半数を占めており、「新たに工業・流通団地へ移転・集約すべき」は22.7%であった。
- ・前回調査から大きな変化はないが、「新たに工業・流通団地へ移転・集約すべき」は25.0%から22.7%へとやや減少している。



回答者数：今回調査(H30)N=1,005、前回調査(H20)N=810

■ 年齢別・性別・地区別集計

- ・地区間で回答に大きな差はなく、最も住工混在が著しい粕屋西地区においても他地区と同様の回答であった。

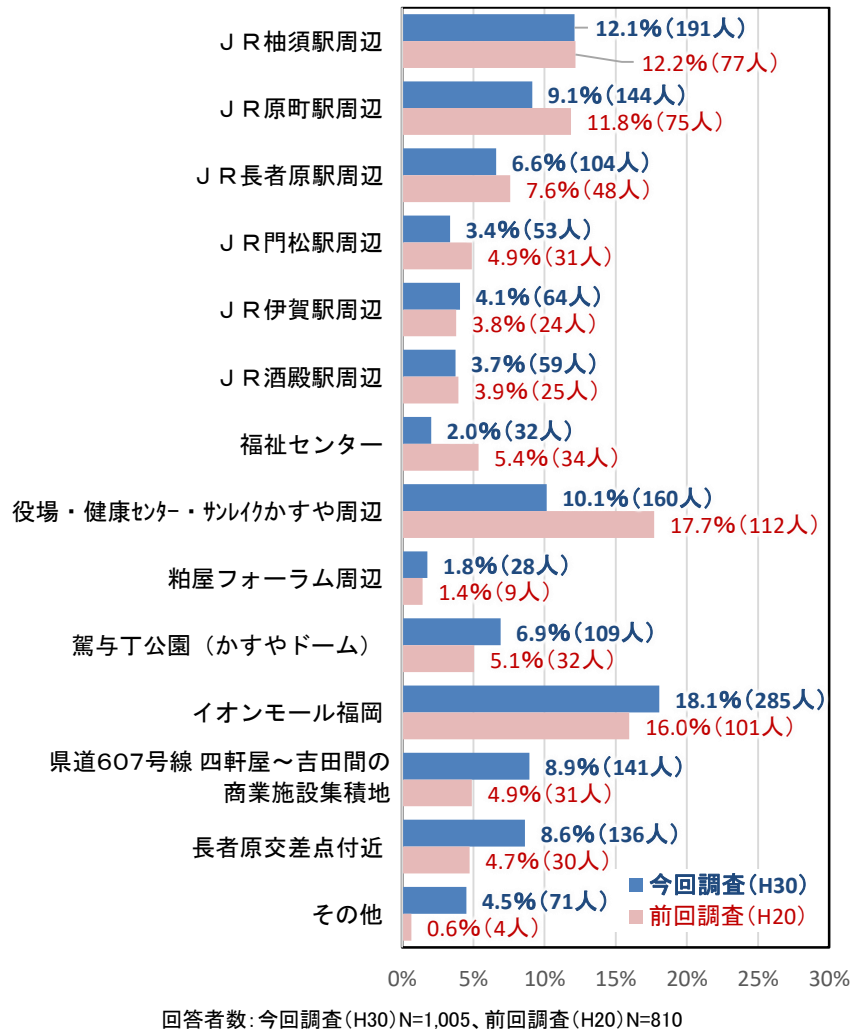


## 2.5 交通の利便性

設問：問9 普段よく利用する場所で、自宅からそこまで行くのに不便を感じる場所は？  
その解消のため必要と思うことは？  
（“行くのが不便な場所”を2つまで選択し、それぞれ“解消する為必要なこと”を2つまで選択する複数回答）

### (21) 行くのが不便な主要施設

- ・行くのが不便な場所として特に多くあげられたのは、「イオンモール福岡」(18.1%)であった。次いで「JR 柚須駅」(12.1%)、「役場・健康センター・サンレイクかすや周辺」(10.1%)が多かった。
- ・前回調査から「役場・健康センター・サンレイクかすや周辺」が不便という意見が大きく減少している。



(22) 不便さの解消に必要なこと

- ・イオンモール福岡以外のすべての施設で、不便さを解消するために必要なことは「バイパスを新設する」か「既設道路の拡充」のどちらかが最も多く、車社会に対応した幹線道路の整備へのニーズが高い。
- ・行くのが最も不便な主要施設にあげられた「イオンモール福岡」では「路線バスのルート新設」が最も多かった。

路線バスの整備

路線バスのルート新設や増便が多くあがっている施設は以下の通り。

「イオンモール福岡」新設 119 件、増便 50 件

「役場・健康センター・サンレイクかすや周辺」新設 52 件、増便 35 件

「県道607号線 四軒屋～吉田間の商業施設集積地」新設 27 件、増便 24 件

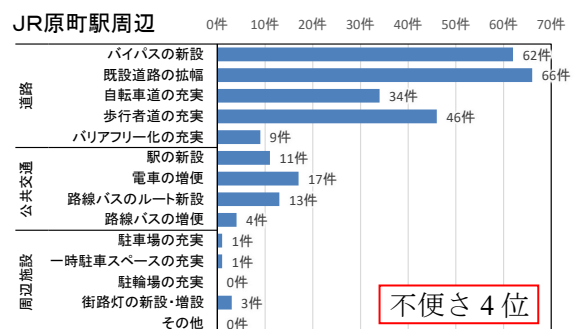
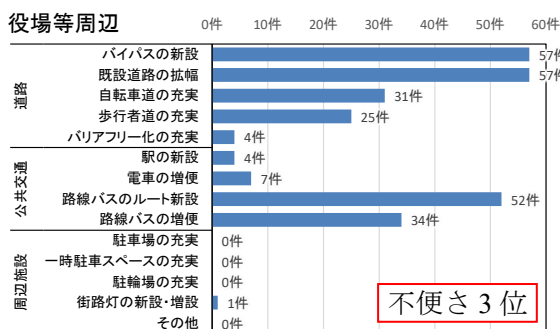
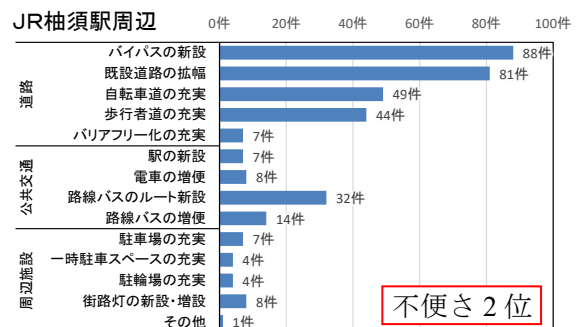
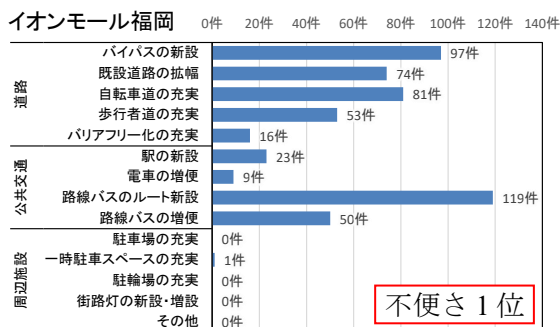
「JR 柚須駅周辺」新設 32 件、増便 14 件

「駕与丁公園」新設 30 件、増便 18 件

駅や周辺施設の整備

- ・駅の新設や電車の増便についてはあまりあげられなかった。
- ・周辺施設の整備についてもあまりあげられなかったが、JR 柚須駅では「駐車場や駐輪場の充実」や「街路灯の増設」、駕与丁公園では「駐車場の充実」、JR 酒殿駅では「街路灯の増設」等があった。

■主要施設別 不便さの解消のために必要なこと



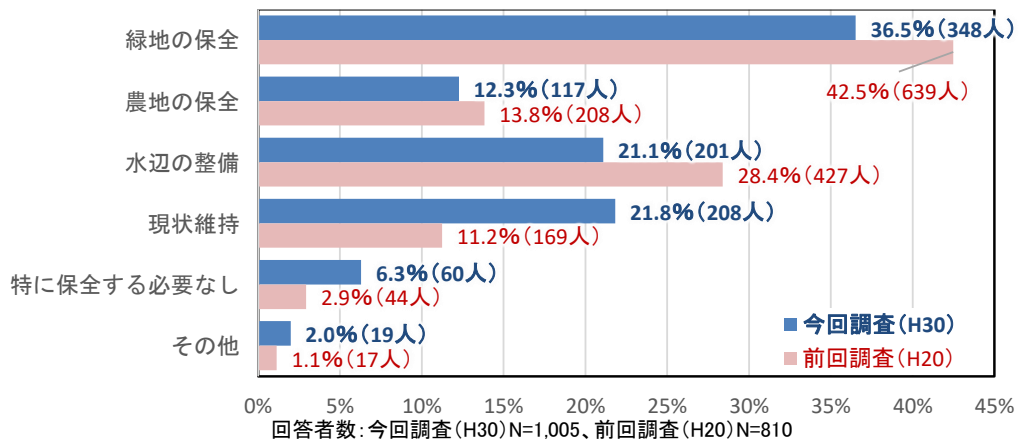
回答者数: N=1,005

## 2.6 自然や景観

### (23) 自然環境の保全・整備

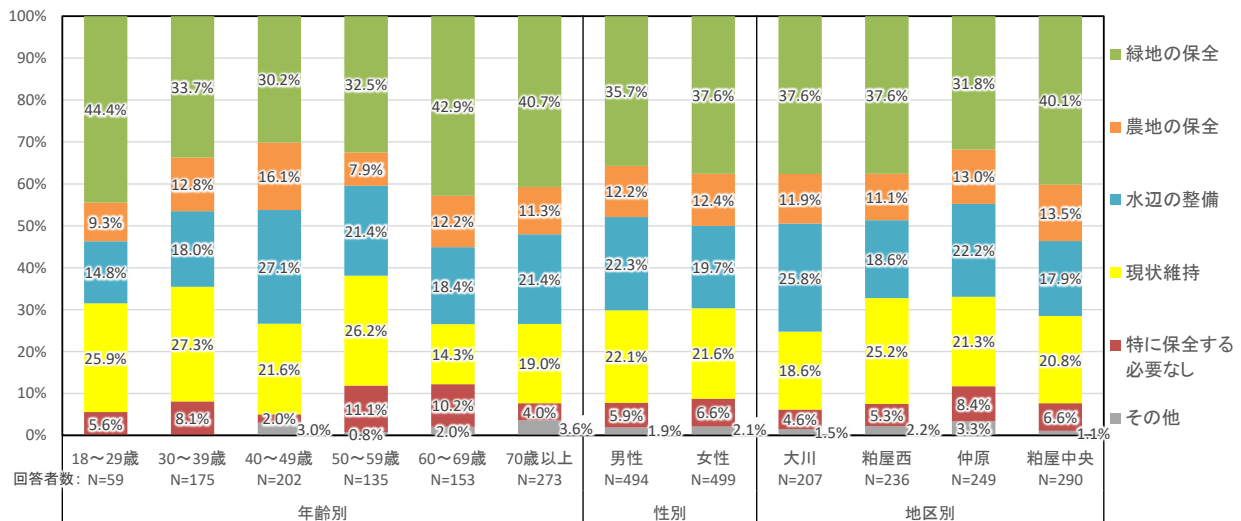
設問：問10 粕屋町として、今後必要な“自然環境の保全・整備”はどれですか。  
(選択肢から1つだけ選択する単一回答)

- ・今後必要な“自然環境の保全・整備”としては、「緑地の保全」(36.5%)が最も多く、「現状維持」と「特に保全する必要なし」を除くと、「水辺の整備」(21.1%)、「農地の保全」(12.3%)の順となっている。「現状維持」と「特に保全する必要なし」を合わせると28.1%を占め、「水辺の保全」(21.1%)より多い。
- ・前回調査同様に「緑地の保全」が最も多いが、「現状維持」や「特に保全する必要なし」の割合が2倍近く増えている。



#### ■年齢別・性別・地区別集計

- ・全ての年齢層、性別、地区で「緑地の保全」が最も多い。
- ・大川地区ではほかの地区より「水辺の保全」の割合が高い。

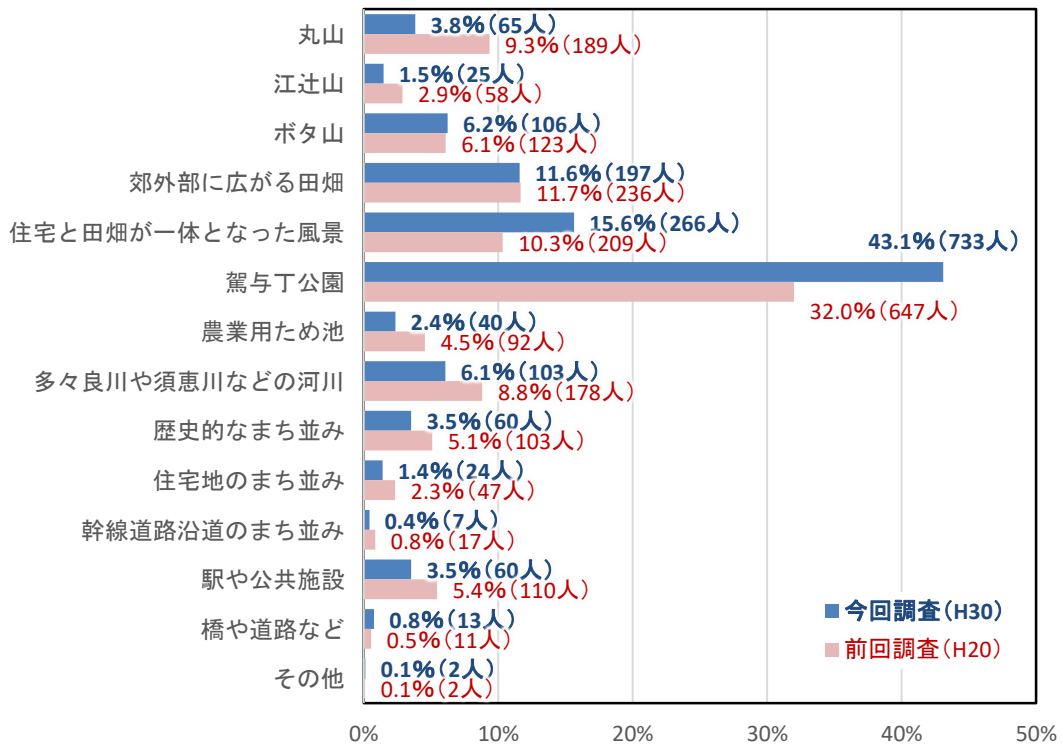


(24) 守るべき景観・改善すべき景観

設問：問 11 粕屋町で“守るべき景観”“改善すべき景観”はどれですか。  
 (“守るべき景観”と“改善すべき景観”をそれぞれ2つまで選択する複数回答)

1) 守るべき景観

- ・守るべき景観としては「駕与丁公園」(43.1%) が最も多くあげられた。続いて「住宅と田畑が一体となった風景」(15.6%)、「郊外部に広がる田畑」(11.6%) の“農地・田園の風景”が 27.2%あげられた。
- ・前回調査より「駕与丁公園」や「住宅と田畑が一体となった風景」の割合が増加しており、反対に「丸山」「江辻山」「多々良川や須恵川などの河川」などの自然の山林や河川が大きく減少している。



回答者数：今回調査(H30)N=1,005、前回調査(H20)N=810

－ 住民アンケート調査 －

■年齢別・性別・地区別集計

・全ての年齢層、性別、地区で「駕与丁公園」が最も多くあげられた。

年代別

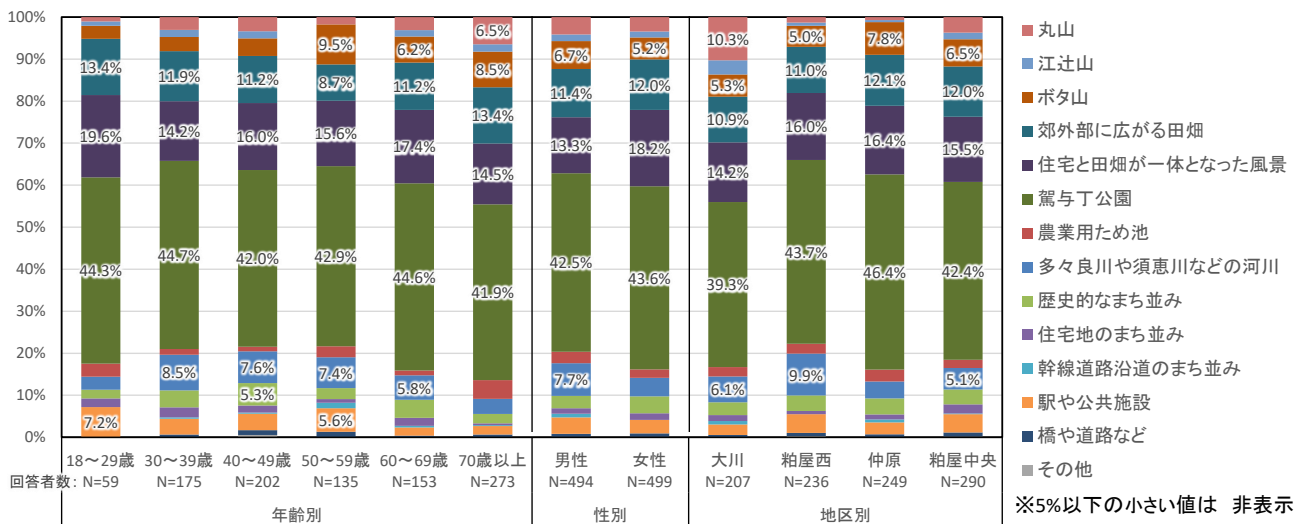
- ・「ボタ山」は50代、60代、70歳以上で多い。
- ・「郊外部に広がる田畑」と「住宅と田畑が一体となった風景」は18~29歳の若い世代で多い。
- ・「多々良川や須恵川などの河川」は30代~50代で多い。

性別

・女性の方が「郊外部に広がる田畑」と「住宅と田畑が一体となった風景」の割合が多い。

地区別

- ・「丸山」「江辻山」は大川地区で多い。
- ・「多々良川や須恵川などの河川」は粕屋西地区で多い。

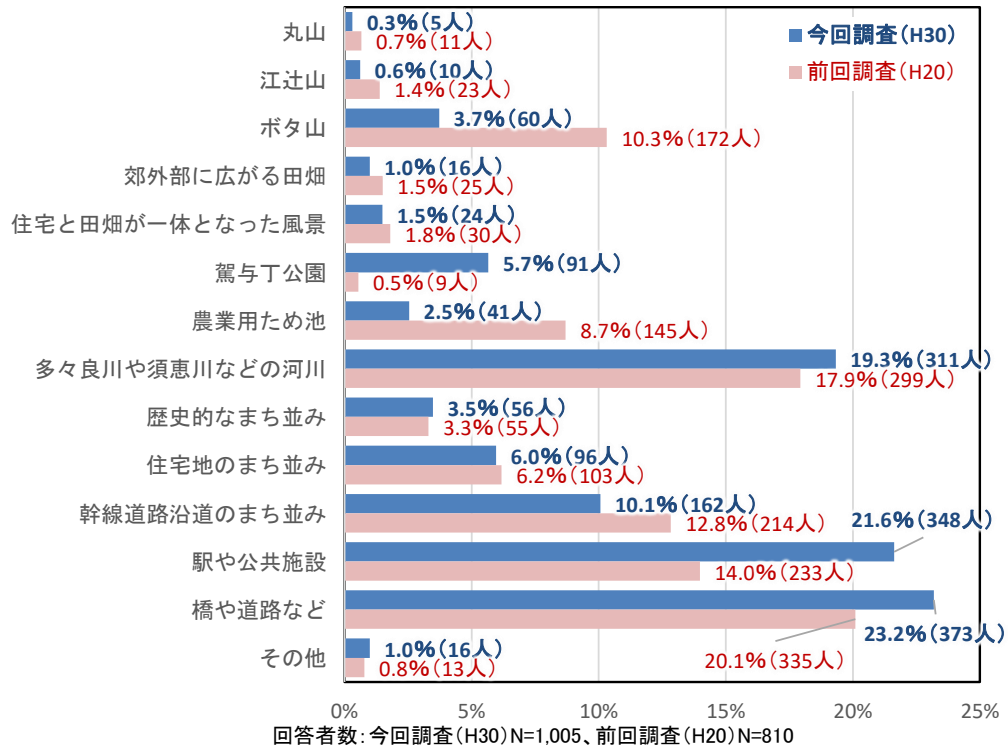




－ 住民アンケート調査 －

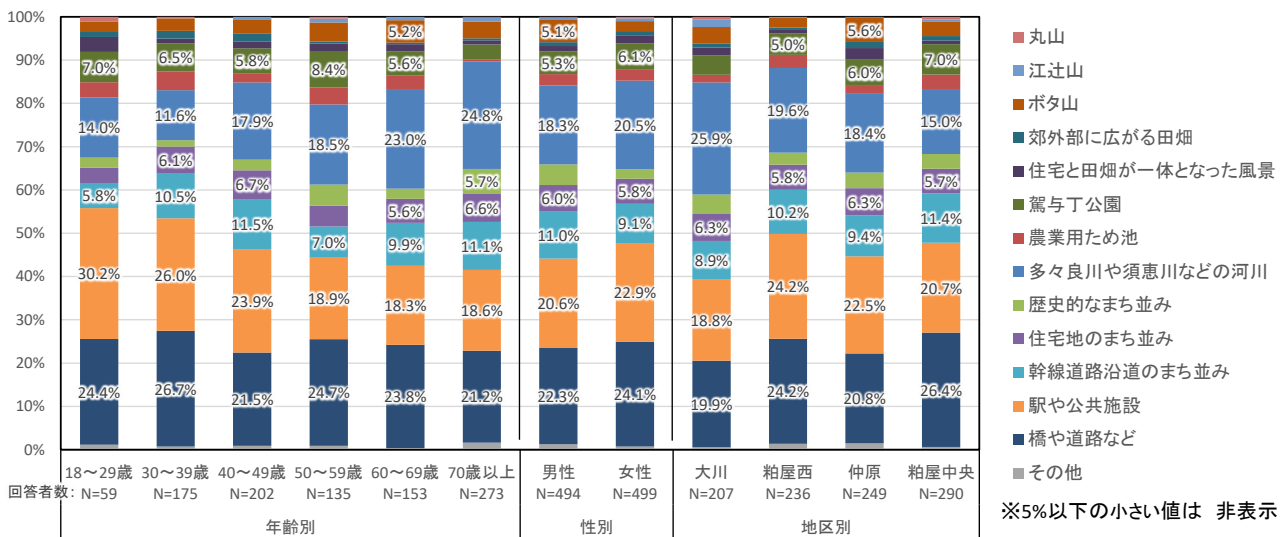
2) 改善すべき景観

- ・改善すべき景観としては「橋や道路など」(23.2%)、「駅や公共施設」(21.6%)、「多々良川や須恵川などの河川」(19.3%)が多くあげられた。
- ・前回調査より「駅や公共施設」「駕与丁公園」の割合が大きく増加しており、反対に「ボタ山」「農業用ため池」の割合が大きく減少している。



■年齢別・性別・地区別集計

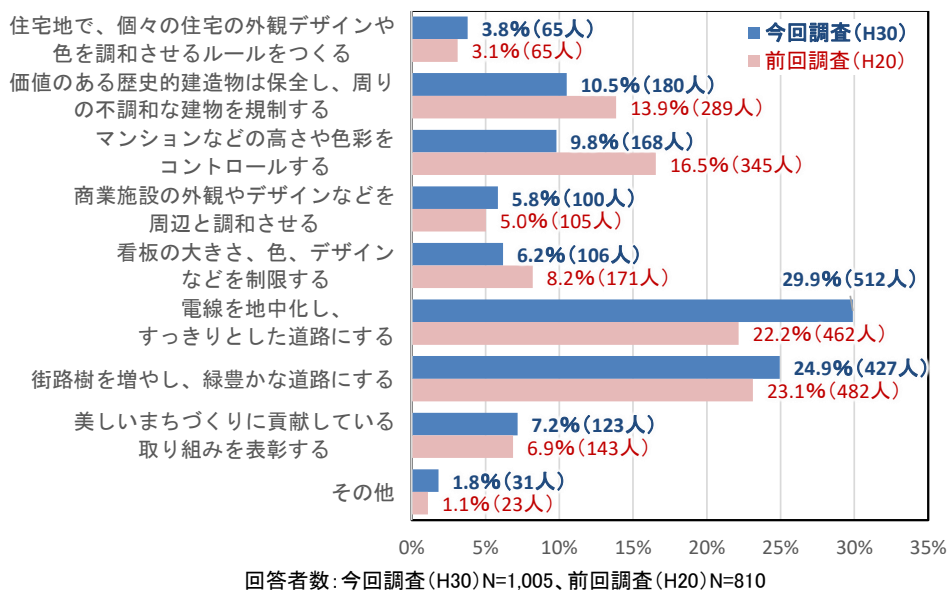
- ・若い世代で「駅や公共施設」の割合が高く、高齢の世代で「多々良川や須恵川などの河川」が多い。
- ・「多々良川や須恵川などの河川」は大川地区で多い。



(25) 景観向上に向けた取り組み

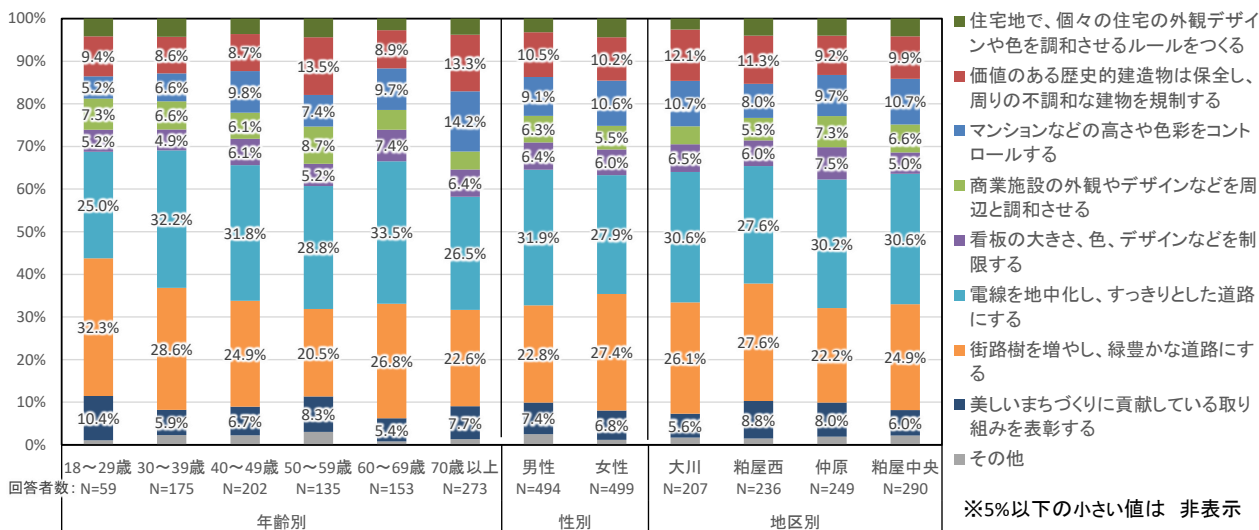
設問：問 12 粕屋町の良好な景観形成、景観向上のためには、特にどのようなことが必要と思いますか。（選択肢から2つまで選択する複数回答）

- ・多かったのは「電線を地中化し、すっきりとした道路にする」(29.9%)、「街路樹を増やし、緑豊かな道路にする」(24.9%)で、これらは前回設問より割合が増えている。
- ・前問の改善すべき景観と同じく、道路景観についての取り組みが多くあげられている。
- ・「マンションなどの高さや色彩のコントロール」や「歴史的建造物の保全」の割合は減少している。



■年齢別・性別・地区別集計

- ・全ての年齢層、性別、地区で「電線を地中化し、すっきりとした道路にする」と「街路樹を増やし、緑豊かな道路にする」が多い。

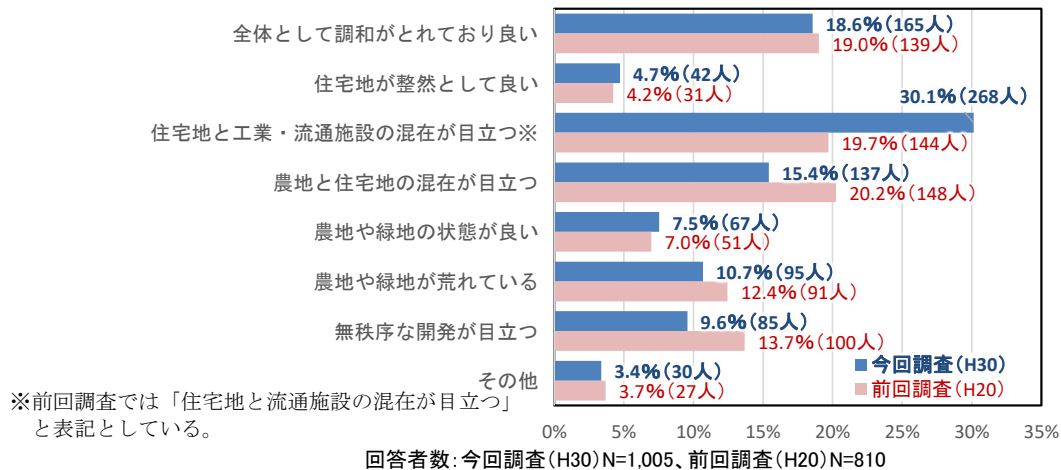


## 2.7 土地利用のあり方

### (26) 土地利用についての住民意識

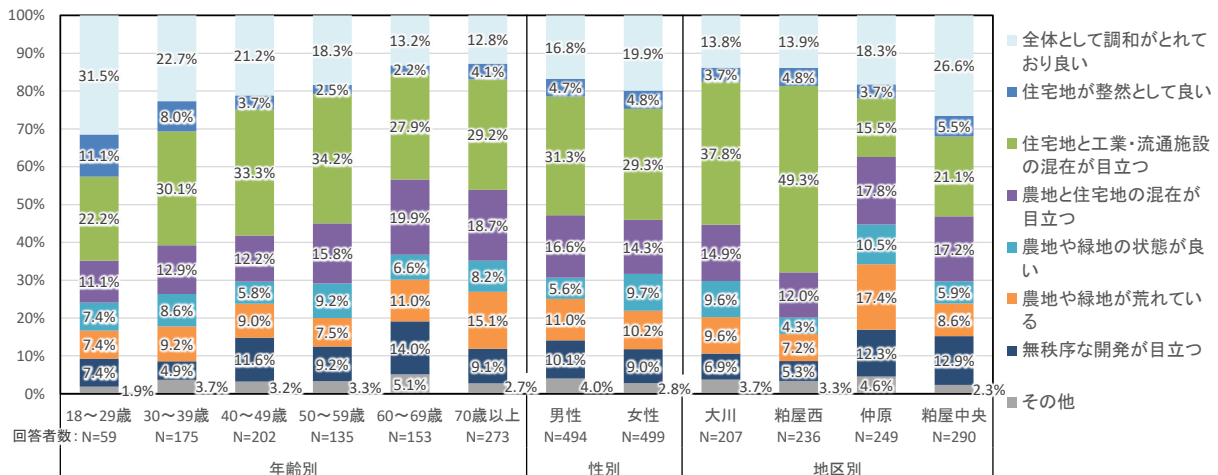
設問：問 13 現在の粕屋町の土地利用状況についてどう感じられますか。  
(選択肢から 1 つだけ選択する単一回答)

- ・「調和がとれており良い」とする人は 18.6%にとどまるが、「農地や緑地の状態が良い」(7.5%)、「住宅地が整然として良い」(4.7%) とあわせると、土地利用を肯定的に見ている住民が 3 割となる。
- ・残りの 7 割は土地利用上何らかの問題点を指摘しており、最も多かったのは「住宅地と工業・流通施設の混在が目立つ」(30.1%) で、前回調査から割合が 1.5 倍に増えている。次いで多かったのは「農地と住宅地の混在が目立つ」(15.4%) であった。



### ■年齢別・性別・地区別集計

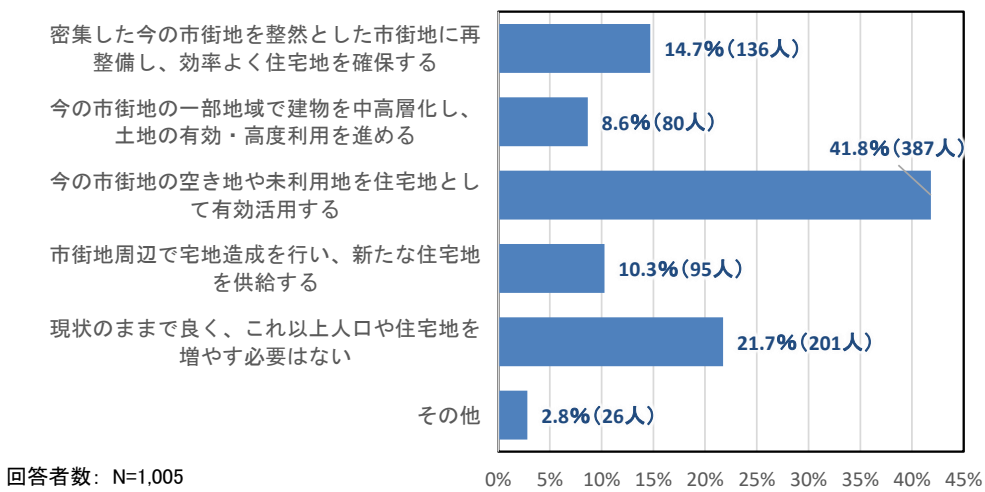
- ・若い世代では肯定的な意見が多い。
- ・粕屋西地区と大川地区では「住宅地と工業・流通施設の混在が目立つ」が多い。
- ・仲原地区では他の地区より「農地や緑が荒れている」の割合が高い。



(27) 人口増加に対応する新たな宅地整備の方向性

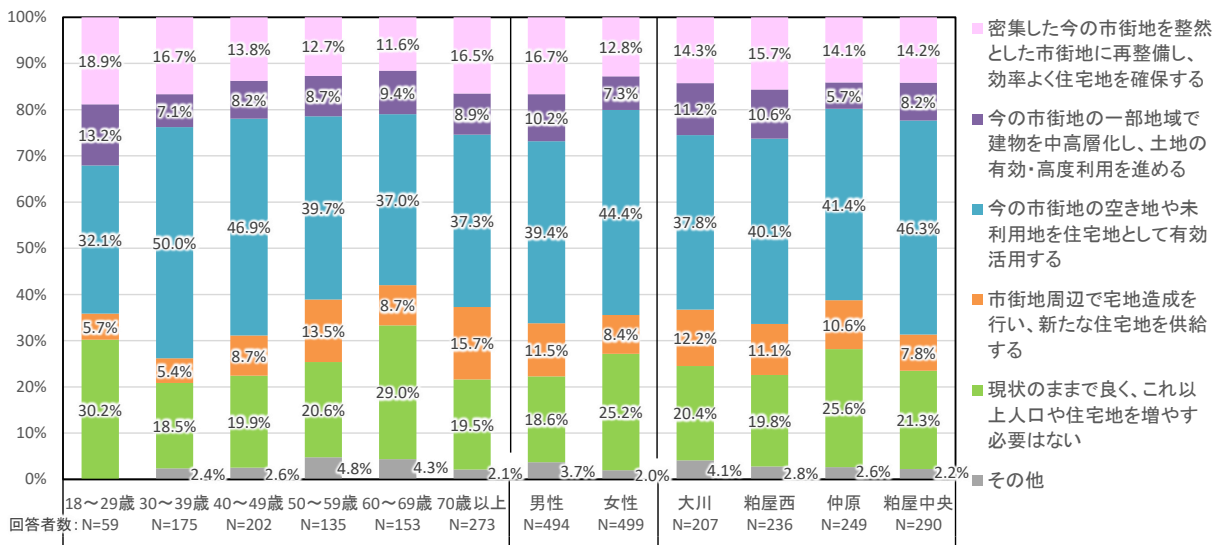
設問：問 14 人口定住化の受け皿となる、住宅を確保するための土地利用の在り方についてどのようにお考えですか。（選択肢から1つだけ選択する単一回答）

- ・最も多いのは「今の市街地の空き地や未利用地を住宅地として有効活用する」（41.8%）で、次いで「現状のままで良く、これ以上人口や住宅地を増やす必要はない」（21.7%）であった。
- ・「市街地の再整備」（14.7%）や「新たな宅地造成」（10.3%）、「建物の中高層化」（8.6%）などの、新たな住宅整備を望む声は少なかった。
- ・町の活力保持のためには人口増加に対応する宅地整備は重要だが、既に町内に居住している住民としては、新たな住宅整備のニーズは低い。



■年齢別・性別・地区別集計

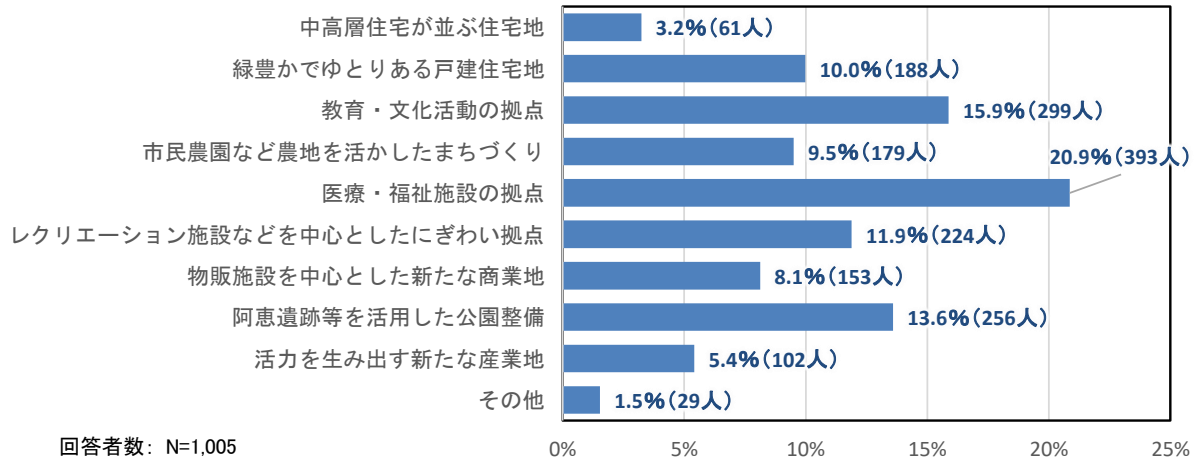
- ・全ての世代、性別、地区で「今の市街地の空き地や未利用地を住宅地として有効活用する」が最も多い。



(28) 九州大学附属農場跡地の活用方針

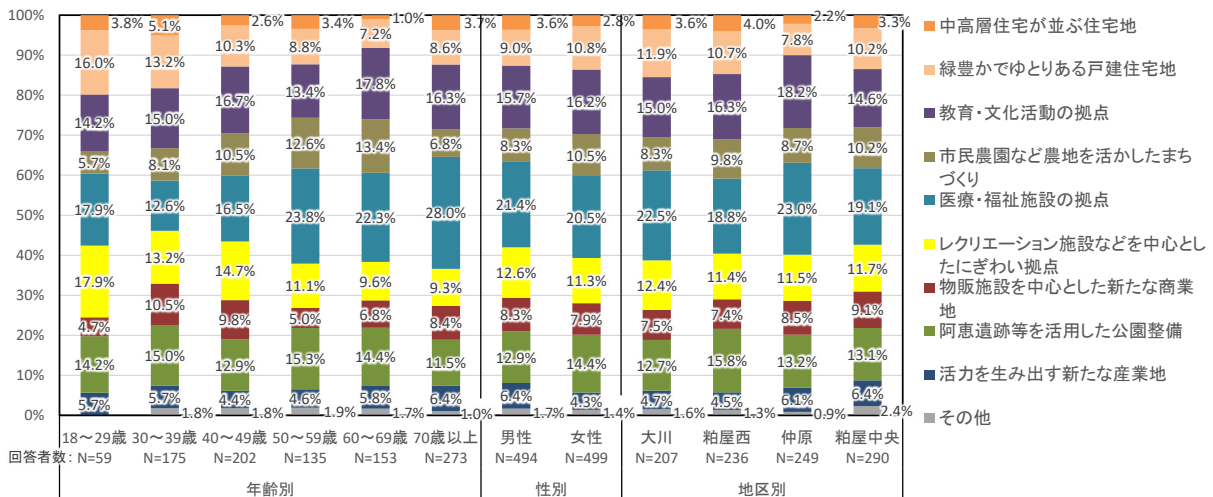
設問：問 15 九州大学附属農場跡地では、どのような街づくりをすべきと思いますか。  
(選択肢から2つまで選択する複数回答)

- ・最も多いのは「医療・福祉の拠点」(20.9%)で、「教育・文化活動の拠点」(15.9%)、「阿恵遺跡等を活用した公園整理」(13.6%)、「レクリエーション施設などを中心としたにぎわい拠点」(11.9%)が続く。医療・文化・レクリエーションの場としての活用ニーズが高い。
- ・既に町内に居住している住民のための施設充実等を望むという、住民からは当然多くあがってくる意見と言える。
- ・反対に「物販を中心とした新たな商業地」は8.1%、「活力を生み出す新たな産業地」は5.4%と商業・工業用地としてのニーズは低い。



■年齢別・性別・地区別集計

- ・「住宅地」の整備は18～39歳の若い世代に多い。
- ・「市民農園」は40～60代に多い。

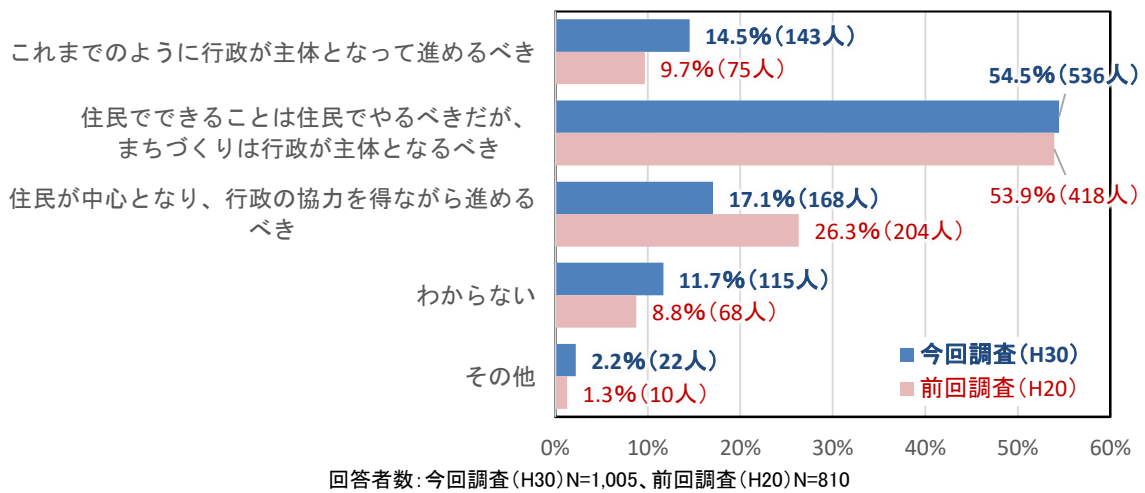


2.8 まちづくりへの参加

(29) まちづくりの主体

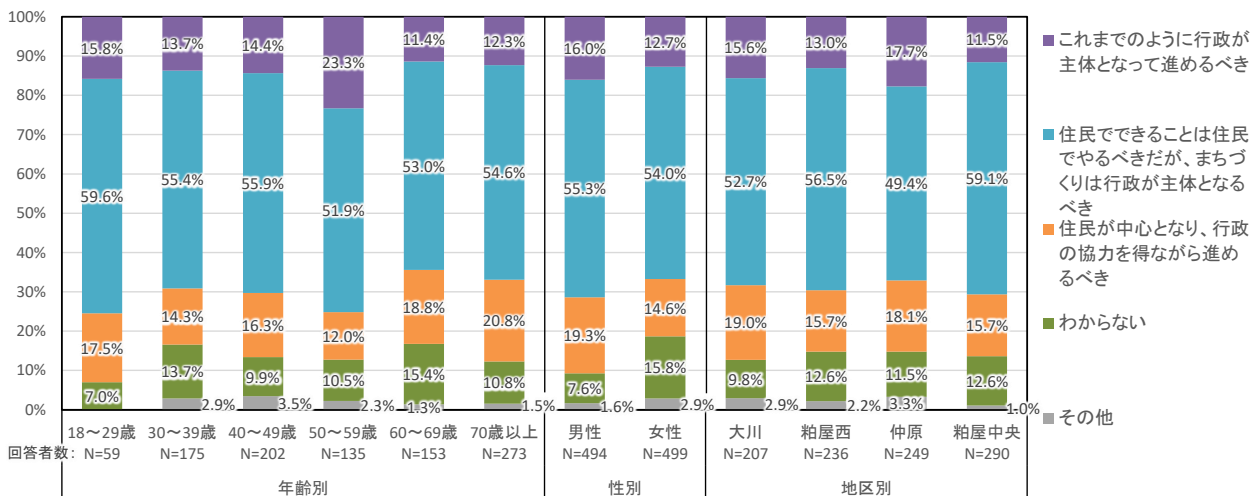
設問：問 16 これからのまちづくりの主体について、あなたはどのようにお考えですか。  
(選択肢から1つだけ選択する単一回答)

- ・「まちづくりは行政が主体で」という2項目をあげた人が、あわせて69.0%にのぼった。その中でも「住民でできることは住民でやるべきだが、まちづくりは行政が主体となるべき」54.5%で最大であった。
- ・「住民が中心で」という意見の割合は、17.1%にとどまっており、前回調査より減少している。



■年齢別・性別・地区別集計

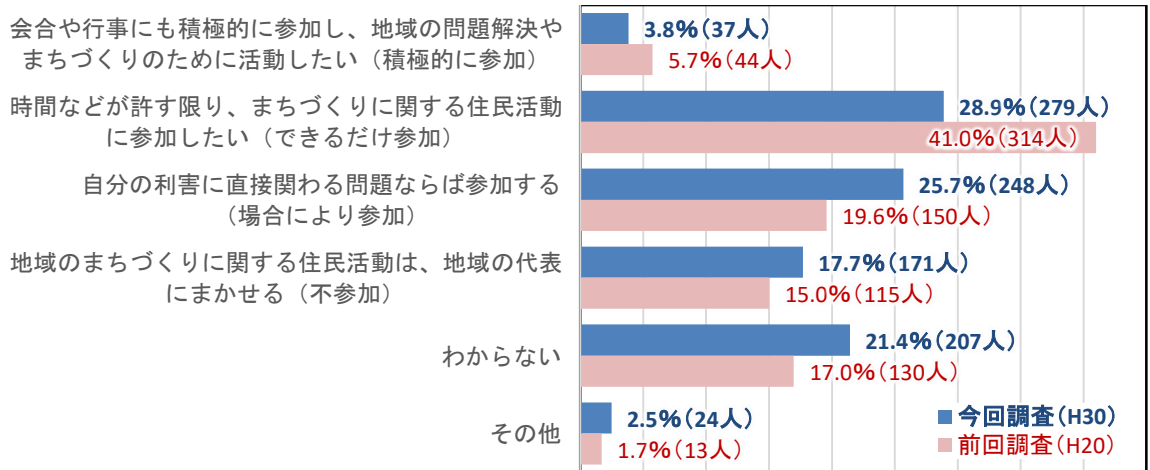
- ・「これまでのように行政主体でとなってい進めるべき」という意見は50代で特に多い。



(30) 住民参加

設問：問 17 あなたはまちづくりに関する住民活動にどの程度参加したいですか。  
(選択肢から1つだけ選択する単一回答)

- ・参加に協力的な「積極的に参加」(3.8%)と「できるだけ参加」(28.9%)を合わせても32.7%にとどまり、前回の46.7%から減少している。



0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40% 45%  
回答者数：今回調査(H30)N=1,005、前回調査(H20)N=810

■年齢別・性別・地区別集計

- ・年代的に見ると70歳以上と18～29歳で「不参加」が多い。「積極的に参加」は60代が最も多いが、18～29歳でも多い。18～29歳の若い世代では、市民参加に意欲的な人と消極的な人の二極化が見られる。
- ・男性の方が「積極的に参加」や「できるだけ参加」が多く、市民活動に意欲的といえる。

